

けいれん(ひきつけ)を起こした

けいれんとは運動神経が異常に興奮することで、身体の全体や一部が突っ張ったり、力が抜けたり、ピクピク震えたりすることです。多くは急な発熱のときに起こり数十秒で治まる熱性けいれんです。けいれん中は一時的に白目をむいたり、唇の色が悪くなったりし、呼びかけにも反応しなくなります。

赤ちゃんや子どもがけいれんを起している。

- ①けいれんが止まっても意識がはっきりしない。
(目が合わない。お父さん・お母さんが分からない)
- ②唇の色が紫色で、呼吸が弱い。
- ③けいれんを何度も繰り返し、止まらない。

一つでも当てはまった。

救急車を呼びましょう。

- ①けいれんが5分以上続いた。
- ②初めてのけいれんだった。
- ③生後6か月未満だ。
- ④6歳以上だ。
- ⑤けいれんしたときの体温は、38℃以下だった。

一つでも当てはまった。

すぐに大和市救急医療機関を受診しましょう。

一つも当てはまらない。

時間外なら様子を見て、通常の診療時間にかかりつけ医へ。不安な場合は電話相談を。
ただし症状が悪化したら、すぐに救急医療機関を受診しましょう。

◆ 家庭でけいれんやひきつけが起こった場合は、まずは以下の点に注意して対処するとよいでしょう。

- ① 抱きしめたり、ゆすったり、たたいたり、大声を出さないこと。
- ② 平らなところに静かに寝かせて、呼吸がしやすいように衣服をゆるめましょう。
- ③ けいれんの際に吐いてしまうと、口やのどがふさがり危険です。顔を横に向けましょう。
- ④ 口の中にはものや指を入れないようにしましょう。
- ⑤ 意識が回復するまで、目を離さずに付き添ってあげましょう。
- ⑥ 目の動きや手足の状態(左右に差があるか)を見て、余裕があればどのくらいの時間けいれんが継続しているかを計ってみましょう。
- ⑦ けいれんが治ったら、体温を計りましょう。
- ⑧ 飲み物や飲み薬は、意識が回復するまで与えないようにしましょう。
- ⑨ 静かな部屋でゆっくり休ませてあげましょう。

